

Minuma Shun Sai

見沼・旬彩



武蔵一宮氷川神社拝殿

2023-24年冬号 vol.27

むさしいちのみや

武蔵一宮氷川神社 御祭神 須佐之男命 稲田姫命 大己貴命

凡そ二千有余年第五代孝昭天皇の御代3年4月末の日の御創立、また第十二代景行天皇の御代、日本武尊は東夷鎮定の祈願をなされました。第十三代成務天皇の御代には出雲族の兄多毛比命が朝廷の命により武蔵国造となり名神大社として、歴朝の崇敬を得て武家時代の鎌倉・足利・北条・徳川氏等相次いで当社を尊仰し、社殿の再建や造営を行っております。明治元年、明治天皇は都を東京に遷され、当社を武蔵国の鎮守勅祭の社と御定めになり氷川神社親祭の勅書(祭政一致の勅)を賜り、10月28日に明治天皇は行幸なされ、御自ら祭儀を執り行わせられました。鎮座地「高鼻」は、見沼の低地に突き出た大宮台地上にあり古代からの湧水地で、湧き出る清冽な泉は原始の氷川祭祀の対象で、古語で靈験あらたかな泉を表す氷川が社名となりました。



▲権桐宜 遠藤胤也さん (湧水・蛇の池から神池を経て御沼(見沼たんぼ)へ) 大宮区高鼻町1-407

体に優しい“おかゆ”

2023年収穫の見沼たんぼ応援米で、おかゆを作りました。米1カップに対して水5カップを鍋に30分ほど浸して置き、やや強火で煮えてきたら、弱火にして鍋底から全体に10分程混ぜ続けてください。

火を止め蓋をしてしばらく蒸します。七草を揃えなくとも白菜の漬物などで体の中からリフレッシュしたように感じられ、普段でも時々いかがでしょうか。



39回目を迎えた「見沼福祉農園」の収穫祭

38年前の1985年、見沼たんぼの保全活動を開始していた「見沼たんぼを愛する会」の呼びかけに応じて、地域で共に生きることをめざす「ぺんぎん村」が、見沼たんぼの保全活動に参加しました。見沼たんぼ地内・川口市差間の「川口・自然の家」に隣接する農地を借り、畑活動を始めました。

この「ぺんぎん村」と見沼たんぼとの出会いが、「福祉農園」の誕生のきっかけでした。福祉と農



▲見沼福祉農園水深協議会代表
猪瀬良一さん

業の連携の理念については、進士五十八東京農業大教授の見解が、農園のホームページに載っているもので、紹介します。

『日本園芸福祉普及協会会長の進士五十八東京農業大教授は「福祉には経済福祉と環境福祉の二つあ

る。老人ホームを作るとか金を出すなどの経済福祉の考えから、最近では、いい環境で汗をかき仲間づくりが可能な環境福祉が評価されている。お金がなくてもそのような環境や時間を提供するのが環境福祉や園芸福祉の考え方。見沼たんぼ福祉農園の人たちも、典型例として、また見沼の環境保全という公共性を担っている」と語っています。』

1999年からは、埼玉県の見沼たんぼの公有地利用事業として、県に呼びかけられた障がい者団体、老人施設の中で関心を持った団体が集まり、「見沼福祉農園推進協議会」が設立され、緑区南部領辻地区で約1haの農園を運営してきています。以来、38年間に渡って、様々な違いを持つ人たちの活動と見沼たんぼでの農業との連携活動が、台風の襲来など多くの苦難を乗り越え、連綿と続けられてきました。

2023年11月23日(祝・勤労感謝の日)に39回目の収穫祭が開催されました。協議会代表の猪瀬良一さんとともに、次世代を担う若い人達の参加が多いにぎやかな収穫祭でした。

JAさいたま木崎ぐるめ米ランド

野菜、果実、加工品、切り花、鉢植えでも人気の直売所ですが、お米やお米の加工品も扱い、JAさいたまが直接経営する330㎡の市内最大の売場面積を持つ直売所です。

地元産特別栽培米コシヒカリを使った「ぐるめ米だんご」、地元産の「彩のかがやき」を使った「さいたま米せんべい」等、米加工品も多数扱っています。そして埼玉産の銘柄米各種も量り売りし、店頭で精米(今摺り米)しています。特に「お米の日」の水

曜日はお買い得です。

豊富な産直品で人気ですが、年末シーズンには地元産のクワイヤツガシラの販売も加わり、お正月用品を買い求めるお客で賑わいます。

浦和区領家4-24-16
TEL.048-834-2890
営業時間:10:00 ~ 17:00
第2・4木曜定休



▲店長の牧野勝雄さん



▲店頭



▲米量り売りコーナー



▲米加工品コーナー

MINUMA EVENT INFORMATION

2023年度 年末農産物即売会について

2023年12月26日(火) 10:00 ~ 13:00 (雨天決行)

さいたま市役所東側ひろば

さいたま市内の青年農業者さんが育てた、正月用の新鮮な農産物の即売会を開催します。人気のあるシクラメン等の季節の花や、日頃見かけない珍しい農産物など、色とりどりに販売されます。おせち料理



▲農産物即売会



▲品物の選定

での縁起物、さいたま市特産の「くわい」も販売します。また、農家さんが搗いたのし餅も販売の予定です。

見沼たんぼの中心地域での高速道路建設計画に反対する活動について

高速道路の計画想定路線

3年前の2021年から大宮国道建設事務所で始まった「見沼たんぼ地域での高速道路建設計画」。さいたま市広域道路推進室は、導入位置は未定としていますが、「さいたま市都市計画マスタープラン」で、高速道路の建設が想定されている路線は、図示されており、想定している路線以外には、その先の岩槻インター方面は、高速道路に接続するべき一般道路基盤がほとんどありません。

反対する理由 その1

この高速道路の通過地区は、見沼たんぼの中心的な地域で、最も重要な風致・環境・景観をもった地域です。高速道路が高架で建設された場合、この地域の見沼たんぼの優れた風致・環境・景観に大きな影響を与え、良好な地域づくりを進める上で見沼たんぼが持つ多様な価値を著しく毀損してしまいます。

反対する理由 その2

想定されている浦和インターから1.8km程の新規インターは、近すぎて(車で2分)まったく必要性のない「危険」なインターです。

反対する理由 その3

今回の道路建設計画は、首都圏の核都市を結ぶ「核都市広域幹線道路」と「詐称」(当初は『東西連絡道路』と表現)していますが、核都市関係自



▲通過地点の見沼自然公園の大沼に飛来したオオハクチョウの親子

治体である千葉県・千葉市や東京都・立川市等とのなんらの協議もまったくなく、首都圏としての広域的な建設コンセンサスもないまま、見沼たんぼ地域だけで建設を進めることに反対します。

反対意見書の提出先

国土交通省 関東地方整備局 大宮国道工事事務所 中洲啓太 様

さいたま市長 清水勇人 様

土木部 広域道路推進室長 瀬庭一仁 様

首都高速埼玉新都心線 東北道延伸促進議員懇話会会長 衆議院議員 村井英樹 様

反対意見書の提出団体

首都高・見沼出口から東北道への高速道路の建設計画に「反対」する会

署名活動にご協力ください。

紙ベースでの署名活動とともに、オンライン署名活動でもお力添えください。下記のURLをchange.orgで検索して、ご賛同署名をしてくださいますようお願い申し上げます。

<https://chng.it/vKdGVxPMvj>



野本農園

野本農園は江戸時代から6代続く農家で、賢司さん・真理子さんご夫妻・ご両親の敏夫さん・律子さんご夫妻と4人で、さいたまの気候風土に合った野菜、約60種類を、有機質肥料や、化学農薬の不使用や使用量の低減に努め、作物にストレスをかけず栽培する事を心掛けています。

なかでも、トマト・きゅうり・ナス・とうもろこし・ピーマン・すいか・みかん等が人気です。

また最近では色鮮やかな珍しいヨーロッパ野菜にもお客様の関心が集まってきました。

収穫した作物は、自宅近くの直売所や卸業者によってヨークマートやイオンで販売され、更にさいたま市見沼区役所敷地前で毎月末水曜日に開催される「みぬマルシェ」でも販売されています。

野本農園直売所：見沼区東門前466

TEL.090-1737-2460

定休日：水曜・日曜・祝日・年始 営業時間：9:30～12:00

スマホで検索の場合は野本農園直売所で検索下さい。



▲野本賢司・真理子さんご夫妻



▲みかん

冬の野菜料理

野菜たっぷりクリームシチュー

ジャガイモ、タマネギ、ニンジン、白菜、紫水菜、ブロッコリー等々。寒い日、時間のある時、ひと鍋一杯作りましょう。ベーコンからの油でタマネギをいため、其々焦げないように、ひとひたの水で蒸し煮、冷めてから小分けにして冬の恵みをいただきます。例えば、フライパンにバターを溶かし小麦粉を焦げないように炒め、室温の牛乳を少しずつ入れて、程よいとろみになったところで、野菜のストックを投入、塩、胡椒で充分美味しく感じられますが微調整はお好みでどうぞ。



見沼・地産地消市「みぬマルシェ」



▲スタッフの皆さん



▲お客様で賑わう店頭

▲みぬマルシェ実行委員会委員長
岡田克己さん

みぬマルシェは、「食から地元の魅力を広げよう」と4年間にわたる見沼区区民会議での検討を経て、そのOB・OGと生産者によって、2017年6月に始められました。

毎月最終水曜日の11:00～13:00に見沼区役所敷地前で開催されるマルシェは、現在、生産者10店、ボランティアスタッフ8名で運営しています。

地元・見沼産の採れたての野菜や果物、お米など、多彩な農作物が並び、開店時にはいつも行列が出来るほど。

2022年からはマルシェでピックアップした旬の野菜を届ける「定期便」もスタート。

新たなボランティアも加わるなど、地元の魅力を広げる輪が広がっています。

連絡先：岡田克己委員長 TEL.090-5760-2103



新しい市民の森・見沼グリーンセンター

見沼グリーンセンターは、約10ヶ月かけ機能回復および向上を図る改修工事を実施しました。

見沼たんぼの北部に位置し、市民の森の敷地は東側を芝川に、西側を見沼代用水西縁に隣接した面積約14万平方メートルの緑豊かな施設です。

中央に広大な芝生広場が広がり、周囲を植栽で囲み健康歩道、林間テラス、展示温室（葉野菜）、リスの家（シマリス約200匹）、市民農園（143区画）、指導農場、バラ園（50種、400本）、盆栽園（約40鉢、約40種：松他）、管理棟（会議室）などがあります。これらを



▲所長の三瀬公一さん

見沼のお店紹介！

埼玉産小麦粉生パスタ専門店 ichi

店主の角井仁志さんが「埼玉の良さ」を知ってもらいたいという思いで始めた生パスタ専門店です。埼玉産希少小麦ハナマンテンを使用し、素材や配合、捏ねる時間、全てにおいてこだわり抜いた埼玉ブランドの極上生パスタです。

野菜も地元農家の季節の無農薬野菜を中心に仕入れています。他にも近所の精肉店から仕入れるこだわりの長期熟成生ハムや牛挽肉を使用したメニューがおすすめです。散歩の達人2022年12月号にも紹介されています。

店頭には 地元の自然栽培無農薬野菜や季節のフルーツ等、美味しいものも販売しています。

メニュー例：県産食材のみで作ったペペさいたま、地元農家さんの野菜仕様のトンノロッソ、市最古の養鶏場卵の濃厚カルボナーラ、自家製和牛ミートソースパスタ、他に地元食材を使った各種サンド（生ハム、ローストポーク、蜂蜜等）やベーグルも。

見沼区御蔵1432-17 TEL.048-617-0041

営業時間：10:00～14:00 18:00～22:00 (LO.21:30)

*日曜はランチ営業のみ 月・火定休

大宮駅から浦和美園駅バスで15分の「日大前」バス停前

活用し、農業祭（約11万人参加）、花と緑の祭典等の大きな農業振興イベントや、展示会も開催されます。また、週末には野菜の直売所などもあり、市民の憩いの場所となっています。

また、市民農園（全体面積12,000㎡）があり農業とふれあうこともできます。指導農場では、本市の農業振興を目的に野菜や果樹の試験栽培やスマート農業の推進に取り組んでいます。

https://www.city.saitama.jp/004/001/003/001/p000088_d/siminnomori.pdf

北区見沼2-94 TEL.048-664-5915 FAX.048-651-0962

JR宇都宮線：土呂駅下車 徒歩約7分

東武アーバンパークライン：大宮公園駅及び大和

田駅下車 徒歩約20分 駐車場：約300台



▲新会議室

▲新システムキッチン（業務用電子レンジ付き）



▲店主の角井仁志さん



▲店頭



▲店内



▲ランチメニュー例

多品種のシクラメン生産・直売 「猪原園芸」

交差点・宮ヶ塔西から近い道路沿いの大きな看板が目印です。50年以上にわたり、生産販売しています。父親からの2代目で、30年前からシクラメン生産と販売を行い、現在、約50種の多品種を扱っており、昔ながらの在来種から新しい品種までお気に入りのお花を探すことができます。大きいサイズ8,000鉢とミニサイズ3,000鉢です。特に、今年の推薦品種は、全国新品種大賞を受賞した不思議な形をしたうつむき咲きフリンジ系で、花が無数に咲き誇っている赤色の「宴」です。

埼玉県が育成した芳香シクラメンの販売も行っています。今年は猛暑で花咲きが遅かったですが、現在は順調にきています。暑さ対策は品種改良等で対応しています。シクラメン関連の施設は、9棟のビニールハウスを含め、約800坪です。リピーターや口コミによる顧客が多く、贈答品や宅急便もかなりの割合です。ご夫婦と母親、パートの方でおこな



▲推奨シクラメン「宴」



▲猪原シクラメン園芸



▲園主の猪原茂樹さん

ています。奥さんは、シクラメンの品質管理が上手であり、シクラメンの栽培にも長けています。

見沼区東宮下830

ご注文・お問い合わせ TEL.048-683-2672

営業日:11月10日～12月31日

取扱品目:シクラメン8,000鉢(6号～8号鉢)、ミニシクラメン3,000鉢(2.5号～4号鉢)

星野農園のイチゴ

星野喜治さんは定年退職後、農業を通じて地域とつながりを持ちたいと思い、埼玉県農業大学校に入学。卒業後は、対面販売に適した作物で幅広い年代に人気のあるイチゴの栽培を始めました。



▲星野喜治さん



▲星野農園

現在は「あまりん」と「やよいひめ」を約1アールのハウスで土耕栽培しています。「あまりん」は、2021年度にさいたま市農業祭実行委員会の「いちご共進会」で1等を獲得したほどのおいしさ。また、安心して食べてもらえるイチゴを届けたいと、ハウス内は太陽熱消毒を行うなど、農業は極力使わずに育てています。

この夏は尋常ではない暑さが長く続き、苗の管理が大変だったそうですが、9月には無事に株を植え付けて、受粉のためのハチをハウス内に放しました。年末年始の頃から収穫が始まります。

生産物はイチゴのハウス前にあるコンテナを利用した手作りの直売所で、採りたてを販売。野菜や柑橘類なども栽培していて、季節のものが並ぶ直売所は地域の人たちとの気さくな交流の場となっています。

直売所:大宮駅から自治医大さいたま医療センターへ向かって、見沼代用水西縁を越えたとすぐ左脇の駐車場の奥。ノボリが目印です。

営業時間:夏野菜等の無人販売時は、ほぼ毎日8:30～

イチゴの販売は1月から、曜日は不定期で13:30

から インスタグラムは右記QRコードから



@HOSHINOFIRM_STRAWBERRY

MINUMA New Face

N's(エヌズ)トマトファーム浦和 さいたま市認定新規就農者 井上信彦さん



▲井上信彦さん

大学経済学部卒業後、金融関係の仕事約25年勤めました。東京都多摩地区の農家の方と仕事を通じて知り合い、農業に関心を持ちました。50歳を転機に以前から作物に興味があり、農業特に興味のあるトマト栽培へ進む決意をしました。そのため1年間埼玉農業大学校で有機農業を専攻しました。農業大学校時、新規就農のセミナーを聴講しました。その時さいたま市の新規就農の担当者から現在の農地(緑区間宮)の紹介がありました。さいたま市の認定新規就農者の資格を取るため、計画書の提出と面接を受けて認定されました。

農地1反8畝にビニールハウス3連棟を建てトマト(プチピヨ・ミニトマトとミスターアサノ・中玉トマト)を栽培しています。独立ポット栽培方式(養分、水の提供及び温度、湿度の管理)を採用し最大3,000本の栽培は可能とのこと。直売所、JA木崎、都内のスーパーへ出荷しています。規模を大きく、経営基盤を固め将来は観光農園やSDGsを目指し



▲独立ポット栽培方式



▲ミニトマト

ていきたい。さいたま市のハウス組合に加入。

緑区間宮782 直売所(不定期)

野良の藝術2023 大地の鼓動 (さいたま国際芸術祭2023・応援プロジェクト)

地域独自の視点を持ち、且つ国際性もあり、今年さいたま市内で開催される中で最も充実した芸術祭とされる『野良の藝術2023 大地の鼓動』が10月21日(土)～11月12日(日)まで23日間にわたって開催されました。今年の開催場所は、さぎ山／さいたま市緑区上野田282萩原方 さぎ山記念公園、浦和駅東口駅前市民広場など。

主催団体「社会芸術・ユニットウルス」、「農」と結

2002年吉田富久氏の「社会芸術展 THE 市場」により、社会芸術は始まりました。やがて生きる基としての「農」に着目。2016年の「TANBOプロジェクト」では、農のあり方に現代社会が抱える問題を解決していく鍵が隠されていることに着目し、有機農法を行うファーム・インさぎ山に2017年より炭窯を設置し、年々、野良の芸術活動の輪を広げています。

芸術理念＝『縄文思考』にある「野良」と芸術活動の結

「自然からの恵みを何ひとつ無駄にすることなく循環再生しながら自然の一部として生きる術を生み出し、協働、助け合いを行う思考である『縄文思考』をわ

たしたちは里山(＝ふるさと)に、たどることができると考えている。」「野良の芸術のあるところでは、自然の一部として生きる術を編み出し良き生活をつくる創意工夫、自然の恩恵からよりすぐって整えていく術、その技そのものが芸術であり、野良であると考えている。」

見沼たんぼ地域で永年にわたって展開され続けている「野良の芸術活動」の今後が期待されています。



▲縄文庭園

今号に掲載された、見沼たんぼ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ



市民が応援する見沼たんぼ地域での人と環境にやさしい都市農業の広報誌
「見沼・旬彩」2023-24年冬号 vol.27

発行：未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会

<http://minuma-miraiisan.jp> e-mail: minuma@minuma-miraiisan.jp

バックナンバーはホームページよりご覧になれます。

編集：見沼農業・応援連携部会／デザイン・印刷：有限会社アームズ

発行日：2023年12月5日



We
Love
Minuma

この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼・旬彩」は、公益財団法人 サイサン環境保全基金様、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟様からの助成金で印刷・発行しております。